

5 年次感染症内科 BSL レポート

担当学生：小林礼子(30)、抽冬晃司(56)、宮崎勇輔(83)

ヘルペスウイルス感染は粘膜や各臓器に生じ、Host の状態（年齢、免疫機能など）、ウイルスの Type により以下にあげるよう状態を引き起こす。

・ HSV1、HSV 2

α - ヘルペスウイルス亜科に属する非常に相同性の高い 2 種のウイルスである。下記の表以外にもヘルペス性瘰癧、剣状ヘルペス、HSV 直腸炎、HSV 食道炎、HSV 肺炎などもある。

	HSV-1	HSV-2
日本成人の潜伏感染率	50~80%	5~10%
主な潜伏部位	三叉神経節	仙髄知覚神経節
疾患	口唇顔面ヘルペス（歯肉口内炎、咽頭炎） 眼部ヘルペス（角膜炎、網脈絡膜炎、急性壊死性網膜炎）	性器ヘルペス
中枢・末梢神経における感染	HSV 脳炎（人格変化を伴う） Bell 麻痺、多発脳神経炎	HSV 髄膜炎 Mollaret 髄膜炎
	横断性脊髄炎、Guillain - Barré 症候群	

・ HHV-3 (varicella-zoster virus : VZV)

水痘および帯状疱疹という臨床的に異なった 2 つの疾患を引き起こす。発疹は躯幹と顔から出現し、他部位に急速に広がる。顔面神経膝神経節が侵されると、Ramsay Hunt 症候群（第 7、8 脳神経症状）を呈する。また、水痘肺炎、心筋炎や、小児では中枢神経症状として急性小脳性運動失調、無菌性髄膜炎、脳炎、横断性脊髄炎、Reye 症候群などが発症する。

・ HHV-4 (Epstein Barr virus : EBV)

伝染性単核球症の代表的な原因ウイルスである。先天性あるいは後天性免疫不全患者では、伝染性単核球症と関連して、B 細胞リンパ腫、T 細胞リンパ腫、Hodgkin リンパ腫、Burkitt リンパ腫などのリンパ増殖性疾患や、鼻咽頭癌、Gillain-Barré 症候群、急性横断性脊髄炎などが発症する。

・ HHV-5 (サイトメガロウイルス : CMV)

特徴的な巨細胞を産生し、あらゆる年齢層で感染する。世界中でよくみられ、幼い小児は、成人へ主な感染源となる。血液、尿、唾液、子宮頸部の分泌物、精液、便、母乳から伝播する。多くは無症状で、CMV 単核球症の主要原因となる。免疫低下患者では、網膜炎、肝炎、脳炎、肺炎、消化器疾患（胃・食道潰瘍、大腸炎）、多発性神経根症などがみられる。

・ HHV-6

母親からの移行抗体が消失した頃の乳児（9~21 ヶ月）で感染がよく見られる。

突発性発疹や熱性痙攣の原因でもあり、その他、伝染性単核球症、脳炎、肺炎 また近年では DIHS (Drug-induced hypersensitivity syndrome) との関連が言われている。

・ HHV-7

小児期に感染。唾液中に存在し、主要な感染源となる。一般的な臨床症状は発熱と痙攣である。

・ HHV-8

流行地域では小児期に、流行の少ない地域では成人（性感染症）に感染する。免疫不全状態における初感染で急性発症の発熱、脾腫、リンパ節腫脹を特徴とした Kaposi 肉腫を呈する代表格である。臓器移植や麻薬の回し打ちが伝播に関与している。

【参考文献】

Harrison's Principles of Internal Medicine

UpToDate : Clinical manifestations of varicella-zoster virus infection: Herpes zoster

Clinical manifestations and treatment of Epstein-Barr virus infection

レジデントのための感染症診療マニュアル 第 2 版 医学書院

感染症診療スタンダードマニュアル 羊土社